

Zoom Up Tome 2025 Special

全国や世界の舞台で活躍した
学生たちの挑戦に迫る



新たなステージで
高みへ羽ばたく

Hironori Abe

阿部 鴻憲

(鶴岡東高3年・中田町加賀野二出身)

第94回全国高等学校
卓球選手権大会
男子ダブルス 第3位

7月31日から8月4日まで、J:COM アリーナ下関(山口県下関市)を会場に開催された全国高等学校卓球選手権大会(インターハイ)の男子ダブルスで、中田町出身の阿部さんが3位入賞を成し遂げた。

阿部さんが卓球と出会ったのは小学1年生の時。兄が所属していた卓球教室「錦桜紅羅舞」の練習を見に行っていたことがきっかけで、卓球の面白さにのめり込んでいった。中学3年生の時に全国大会に出場するも初戦敗退。悔しい思いを胸に、高校での雪辱を誓って全国上位レベルの鶴岡東高校に入学した。高校での練習は中学までと比べ物にならないほど厳しかったが、「全国制覇したい」と、必死で練習に励んだ。昨年まで、2年連続で団体とダブルスでインターハイベスト8進出を果たしたが、表彰台には届かなかった。

全国3位以上を目標に、限界まで自分を追い込むほ

ど練習して挑んだ今回は、山形県予選で1セットも奪われることなく優勝。インターハイでも好調を維持し、相手にリードを許しても強気のプレースタイルを貫いて勝ち進んだ。ベスト4進出を賭けて挑んだ準々決勝では、大阪府代表の強豪校と対戦。一進一退の攻防の末2対2で迎えた最終セット、相手にマッチポイントを握られて後がなくなるが、仲間と「最後まで諦めずにミスを恐れないで攻め切るぞ」と声をかけ合い、4ポイント連取して逆転。激戦を制して表彰台への道を切り開いた。続く準決勝では、優勝した相手に惜敗したが、「自分の卓球が全国で通用する」と確信につながった。

「目標だった3位になれて、指導者や仲間、家族に感謝しています。全国制覇の夢は大学で達成したいと思っているので、また気持ちを引き締めて一から頑張ります」と、次のステージでの活躍を誓った。



けがを乗り越え
全国の舞台で飛翔

天皇賜盃第94回日本学生
陸上競技対校選手権大会
男子200メートル 優勝

「混戦だったので、3位には入ったかなと思いましたが、まさか優勝できるとは思いませんでした。全国の舞台で決勝に進出したのも初めてでしたし、本当にうれしいです」と笑顔を見せた。

日本学生陸上競技対校選手権大会(インカレ)の男子200mの決勝は6月8日、JFE 晴れの国スタジアム(岡山県岡山市)で開催され、津山町出身の佐々木さんが同種目で東北地区の選手で初となる優勝に輝いた。

佐々木さんは、小中学校では野球に打ち込みながら陸上の大会にも出場。小学6年生と中学1年生の時に県大会で1位となり、その後も県大会で上位に入賞。本格的に陸上に挑戦したいと、陸上強豪校である仙台育英学園高校の門をたたいた。陸上は高校までと決めていたが、キャプテンとして挑んだ3年のインターハイで決勝に進出できず「このままでは終われない」と、続けることを

決意。岩手大学に進学するが、去年はけがが重なり、高校時代の記録を更新できずに苦しい日々が続いた。そんな時、高校の恩師から「高校で3年間頑張ったんだから、今はしっかり休んで、来年からまた3年間必死でやればいい」と声をかけてもらい、再び前を向いた。

けがが完治し、厳しい冬の練習を乗り越え、5月に開催された東北インカレでは、20秒60の東北学生新記録をたたき出して優勝した。周囲の期待も高まる中で挑んだインカレ当日、万全の状態ではなかったが、「ここまで来たら全力で走るだけ」と迎えた決勝。スタートで遅れるも、そこからギアを上げ、持ち前の中盤から終盤のスピードの伸びを生かし、ほかの選手を抜いてトップで栄光のフィニッシュラインを駆け抜けた。

「これからも練習に励んで、インカレ2連覇を目指します」。さらなる飛躍を夏の空に約束した。

Seisho Sasaki

佐々木 清翔

(岩手大2年・津山町元町第一出身)